

登録コード	EKA06900	開講年度	2026				
授業科目	未来の学校と期待される教師					担当教員	伏木 久始 他
英文授業名	Future Schools and Teachers 2					副担当	林 寛平・谷塚 光典・山口 学・市川 この美・山浦 貞一
単位数	2	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	履修学年	2年生
講義室				授業形態	演習	備考	
信大コンピテンシー 該当							
(1)【授業の達成目標】		【授業で得られる「学位授与の方針」】				【授業の達成目標】	
		2 6 E Aカリ, 2 5 E Aカリ					
		教育現場の諸課題の背景にある関係構造に気づく視点				学校現場で起きている問題を、国際的な視点を含めた広い視野から捉え直したり、歴史的な視点から構造的に分析する見方・考え方を発揮することができる。	
		2 6 E Aカリ, 2 5 E Aカリ, 2 4 E Aカリ					
		社会の一員である教員として生きる意志と倫理観				現在の学校教育の役割を広い視野と専門的な見方から捉え直し、未来社会における学校教育の位置づけと教師の在り方を多角的に考え合うことができる。	
(2)授業の概要		現代社会および未来社会における学校教育の役割や課題を多角的に議論し、「学び続ける教師」であり続けることの意義を理解するとともに、国内外の教育事情を踏まえて、未来の学校に求められることや将来を担う子どもに必要な教育について広い視野から検討し合う。 担当教員が小学校・中学校での実務経験を活かして講義を行います。					
(3)授業計画		第1回：ガイダンス - ミドルリーダーの役割と教職大学院 - 第2回：最先端の教育実践（1）社会の変化と教育実践 第3回：最先端の教育実践（2）個別最適な学びと協働的な学び 第4回：最先端の教育実践（3）文明の発展と学校教育の役割 第5回：個々の研究課題の報告 - 中間発表会（1） 第6回：個々の研究課題の議論 - 中間発表会（2） 第7回：個々の研究課題の再構成 - 中間発表会（3） 第8回：社会の変化から学校の未来像を考える 第9回：社会が求める教育の役割 教育政策の動向と背景を理解する 第10回：社会が求める学校の役割 人材育成の視点から 第11回：社会が求める教師の役割 自分の問題意識から 第12回：個々の研究課題の発表 - 実践研究成果報告会（1） 第13回：個々の研究課題の議論 - 実践研究成果報告会（2） 第14回：個々の研究課題のまとめ - 実践研究成果報告会（3）【課題提出】 期末試験の有無 無（最終レポートの提出をもって充てる）					
(4)成績評価の方法		・第14回に提出するレポート(100%)により評価する。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。					
(5)履修上の注意		・この授業に関する連絡事項等は原則としてeALPSシステムを使って行うため、登録メールアドレスに着信するメール内容を随時確認すること。また、必要なファイル等はクラウドの「院生共有フォルダ」で共有することがある。 ・教育実地研究等で欠席する場合には個別に代替措置を講じますので、必ず事前に相談して対応できる時間をとってください。事後の対応には応じられない場合があります。 ・授業アンケートの依頼がある場合にはご協力をお願いします。					
(6)質問,相談への対応および連絡先		事前にメールでアポイントメントをとってください。 伏木研究室 N310 E-mail : hfusegi@shinshu-u.ac.jp 林研究室 N307 E-mail : kampei@shinshu-u.ac.jp 谷塚研究室 N211 E-mail : yatsuka@shinshu-u.ac.jp					
(7)成績評価の基準		レポートの質を手がかりとして以下の基準で評価する。 「卓越している」 : 社会が学校に期待する役割を十分に理解し、未来に向けた提言を自分の研究課題と関連させて多面的に説明できている。 「かなり上である」 : 社会が学校に期待する役割を十分に理解し、未来に向けた提言を未来に向けた提言を自分の研究課題と関連させて説明できている。 「やや上にある」 : 社会が学校に期待する役割をおおむね理解し、未来に向けた提言を未来に向けた提言を自分の研究課題と関連させて説明できている。 「水準にある」 : 社会が学校に期待する役割が理解できている。					
(8)事前事後学習の内容について		・Web（eALPS）上にアップロードされた授業資料を適宜ダウンロードして予習復習を行うこと。 ・この授業は90時間の学修を必要とする内容です。したがって、60時間以上の時間外学習が必要となります。					
【教科書】		指定しない					

【参考書】	授業の中で随時紹介する。
-------	--------------